

次期総合計画策定のロードマップ

庁内ワーキングチームの発足

舞鶴市の現状と未来の舞鶴の変化を分析。



写真募集

2040年に残したい舞鶴フォトライブラリー

第1弾として舞鶴の秋・冬の写真を募集しました。次は春・夏の写真の募集を予定しています。

【募集時期】

昨年11月1日～2月28日

【募集テーマ】

- ・2040年に残したい、伝えたい舞鶴の風景
- ・2040年に残したい、伝えたい舞鶴の食
- ・みんなに伝えたい舞鶴の人間国宝



声の「見える化」

舞鶴工業高等専門学校と連携し、投稿された意見・写真を随時共有する特設サイトを製作しました。下コードからアクセス可。



意見募集

#みんなで作る舞鶴

2040年の舞鶴がどんなまちになってほしいかをみんなで描くために、4つのテーマで意見を募集しました。いただいた意見や動画は市公式SNSなどや特設サイトで公表しています。

【募集時期】昨年10月1日～1月31日

【募集テーマ】

- ・自分が市長なら、2040年こんなまちを目指したい
- ・自分が市長なら、2040年に向けてこんな課題に取り組む
- ・市民として、2040年のありたい姿とは
- ・市民として、2040年に向けてできることは



2027年度から新しいまちづくりの指針「次期総合計画」がスタート!

総合計画審議会で答申を受けた基本構想案をもとに行政で実施する実行計画の案を策定します。パブリック・コメント手続き制度や市議会への付議を経て、新しいまちづくりの指針がスタートします。



フェーズ3 4月～

フェーズ2 昨年8月～3月



次世代と考える舞鶴の未来

市内の小・中学校、高等学校と連携し、学生たちが舞鶴の未来を考える学習支援や意見募集を実施しました。寄せられた意見や活動の様子は市公式SNSなどで掲載しています。右コードからアクセス可。



フェーズ1 昨年5月～7月

地域幸福度 (Well-being) アンケート

日頃感じている暮らしやすさや幸福感を可視化し、舞鶴の地域特性を把握しました。

【募集時期】

昨年9月1日～11月30日

【調査対象】舞鶴市民

【調査方法】WEB回答

アンケート結果はデジタル庁ホームページで。右コードからアクセス可。



ワークショップ ヒアリング

市民の皆さんからの「直接」の声を聞く場をテーマごとに設定し、まちづくりと一緒に考えています。取り組み内容などは、市ホームページで。右コードからアクセス可。



【ワークショップ】

昨年8月31日、9月6日

外国人と女性に関する社会問題を発掘・整理し「誰もが暮らしやすいまちづくりを考える座談会」

昨年11月26日

どうすればまちづくりにワクワクできる人が増えるのかを検討する「舞鶴のまちづくり井戸端会議」

昨年12月11日、

1月21日、2月18日

持続可能で魅力的な観光のあり方を考える「観光まちづくりワークショップ」

【ヒアリング】

昨年12月から、舞鶴での暮らしや地域コミュニティとの関わりなどについて、FMまいづるに出演する高校生や民間企業・福祉事業者、海上自衛隊やその家族などに対してヒアリングを実施



Special Talk in MAIZURU

2月10日に「挑戦が、街の空気を変える」をテーマに、これからの舞鶴と地方の未来を考えるトークイベントを開催(関連15頁)。

舞鶴市総合計画審議会

市民の皆さんからいただいた意見をもとに作成した次期総合計画基本構想案の諮問・答申を実施する予定です。



INTERVIEW 制度を超えてみんなが自分事としてつながるまちへ



座談会の参加者
株式会社メタルエッグ 古川 英依子さん

今回「誰もが暮らしやすいまちづくり」という言葉にひかれ、座談会に参加しました。高齢者福祉が市の計画とどうつながっているのか、また他分野で働く人が今の舞鶴の姿をどう感じているのかを知りたかったからです。座談会では、外国人住民などの暮らしや私の知らない世界・視点を知り、人とつながることの大切さを再認識しました。現場では、介護保険などの「制度」だけでは解決できない困り事を多く目にします。だからこそ、元気なシニアが子育て世代を支えたり、同時にシニア世代も元気をもらえたりするような「新しい互助」の仕組みを2040年に向けて築いていきたいと感じました。若者や舞鶴を離れた人が「あの人がいるから舞鶴に帰って頑張ってみよう」と思えるような温かいつながりを再生し、行政と市民もつながりを持ちながら、みんなが舞鶴のまちの課題を「自分事」として捉えられたとき、2040年に向けて舞鶴を動かす大きなエンジンがかかるのだと信じています。

INTERVIEW 動ける、学べる、ワクワクする舞鶴に

山や海がすぐそばにあるこの環境は、他のまちにはない大きな魅力だと感じています。歴史や食、人の温かさといった舞鶴の「資産」をもっと今より広げて、さらに生かしていきたいです。

今の僕たちが感じている課題は、放課後に友だちと体を動かして遊べる場所が少ないことです。部活動以外でも気軽にスポーツを楽しめる施設があれば、まちはもっと活気づくはず。2040年には、フェスや祭りのような一体感があり、みんながワクワクできるまちになってほしいです。そのためにも、僕は地蔵盆などの地域の行事には、これからもずっと参加し続けたいです。もし僕が市長になったら、いろいろな考え方の人と出会える場を作りたいと思っています。そして僕が興味のある生き物や科学の分野で、ノーベル賞を受賞するような研究者の話を聞いてみたい。自然の中で思いきり遊びながらも、多様な視点や深い学びに触れられる。そんな舞鶴を、自分たちの世代から広げていきたいです。



中学校の授業参加者
白糸中学校2年生 山元陽太さん